筑波大学特別支援教育研究　第９巻の刊行にあたって

筑波大学特別支援教育研究センター長
四日市　章

冷たい空気の中にも、春の気配が感じられるようになって参りました。今年度も本誌に筑波大学附属特別支援学校の先生方はじめとする多くの方々から、教育実践に基づいた貴重な論文をご投稿頂き感謝申しあげます。今年度、本センターは設立10周年の節目を迎え、平成26年12月にこれを記念したセミナーを開催いたしました。そこでの講演やシンポジウムを通して、本センターが、我が国の特別支援教育制度の開始に際して、筑波大学の５つの附属特別支援学校が連携し、その資産の有効な活用をとおして、特別支援教育を推進して行くことを目的として設置されましたこと、その後、少しずつではありますが、多くの方々のご支援により、そのための努力を続けられたことを改めて自覚いたしました。今後も、気持ちを新たにして、その努力を継続していかなければと思っております。

現在、特別支援教育は、インクルーシブ教育の考え方の広まりと共に、少しずつその対象とする範囲を拡大しつつあります。しかしながら、通常の学級での特別なニーズのある子どもたちへの対応は、まだまだ十分なものではなく、そのための方法も未だ明確に確立されたとはいえない状況かと思います。これからの多くの、また、多様な研究や実践による知見の積み重ねや、その効果的な発信が重要となるでしょう。本誌もその一役を担い、特別支援教育研究センターの機関誌として、これからも貢献できればと考えております。

特別支援教育の研究成果は、我が国のみならず、国際的にも求められています。子どもを中心とした指導の考え方、個々の子どもたちの教育的なニーズに的確に対応した指導のあり方は、現在、世界中で求められているものです。我が国で長い間実践されてまいりました特別支援教育は、その細やかな対応において、世界に誇るべきものだと思います。ひとつ一つの実践や知見が、特別なニーズのある世界の子どもたち、とりわけ途上国の子どもたちの生活の質や学びの質の向上に寄与しうるものと考えます。多くの分野で国際化が進む中で、我が国の特別支援教育に関する貴重な実践成果を、海外でこの教育に力を尽くされている先生方にも役立てて頂き、我が国の優れた知見が、より多くの子どもたちに還元されていくことを期待したいと思います。このような、特別支援教育の知見の世界に向けた発信は、この間、センターが附属特別支援学校と連携して進めております、教材・指導法データベース事業の成果についても期待されるものであると考えております。今後、多くの困難や努力がまだまだ求められる事業ではありますが、我々の目をより遠くに、そしてより広く向け、将来の、また世界の特別支援教育の進展に資することを期待したいと思います。